

智恵子抄

高村光太郎とその妻
智恵子の愛

脚本・演出・出演：モンデンモモ

入場無料・全席自由

2006年3月25日 土曜日

桐朋学園ポロニアホール

午後2時 開場

午後2時30分開演

桐朋学園芸術短期大学芸術科ステージ・クリエイト専攻
プロデュース公演



総合音楽劇 **智恵子抄** 脚本・演出・出演：モンデンモモ

CAST



モンデンモモ

東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。クラシック、ジャズ、ポピュラーほか多彩なジャンルの歌唱を行い、多数の作詞・作曲活動でも知られる。
幼い頃からクラシックバレエ、体操に熱しみ、「総合音楽劇」として音楽と身体パフォーマンスを融合させた上演活動を活発的に行っている。本公演『智恵子抄』はその再演である。
声楽老師中島雅氏、講師横山氏、ドイツ歌劇をエルンスト・ペフリガー氏、オペラ歌手ヒヤルト・ホム山氏、ジャズダンスを立川真利氏、クラシックバレエを川崎道子氏に師事。
劇団四季アクトーススタジオ修了。シャンソンコンクール審査員特別賞、国際パフォーミング・アートコンクール、出演した舞台に、ミュージカル『キャッツ』、『サウンドオブミュージック』ほか、オペラに『フィガロの結婚』、『ボエーム』ほか。
近年は自身もピアノア大学ミュージカル演劇部、島根県を中心とした活躍も目立つ。

- ピアノシンセサイザー 砂原嘉博
ヴァイオリン 山本美穂
田代晶子
ヴィオラ 菊地麻美子
コントラバス 濱岡由佳
ギター 森田綾乃
フルート 左瀬知
クラリネット 木村真衣
チェロ 佐藤翔

STAFF

桐朋学園芸術短期大学芸術科ステージ・クリエイティブ専攻1年

高村光太郎作品と智恵子

1893年、高村光太郎は別荘高村光太郎の長男として生まれる。
東京美術大学に在学中は彫刻のみならず文学に熱しみ『噴葉』に短歌を発表した。
卒業後はニューヨーク・ロンドン・パリに学び近代詩の巨匠に目覚めるも
傳説、即ちの観念にとらわれる日本美術界に反抗し、
デカダンスに身を投じた欧米主義の『スバル』に辞を寄せる。

1911年、國語を志す智恵子との出会いを機に生の食生活を試みようとする作風に転じ、
自己から人間、社会へと目を向けた理想主義に向かった。
1914年に詩集『道程』を発表。
病魔の折磨から智恵子による再生までの精神の軌跡を描き
高い評価を得る。同年に光太郎と智恵子は結婚。

1921年、智恵子に精神異常の高熱が現れる。光太郎は看病に尽くすが
発病から7年後、智恵子は多くの美しい短歌を残し他界する。
智恵子の死から3年後に発表された『智恵子抄』は高村夫妻の愛を込めて
智恵子との生活をうたった詩話集。短歌6首、散文3編から成り、高い支持を今日に保っている。

ACCESS

桐朋学園ポロニアホール

京王線仙川駅より徒歩5分。
改札出て右手前方、商店街をまっすぐ抜けて
信号を渡り、右方の門より学園内へ。
または
小田急総武線学園前駅北口バス停3番乗り場より15分。
「仙川駅入口」下車、右。

